

河川環境整備における住民主体の伝統技術を用いた河川づくりの提案

平成 24 年 8 月 朝日 翔太

要旨

目的

近年、河川環境整備として全国で多自然川づくりが進められているが、満足出来る結果ではないのが現状である。そこで本研究では、その原因が人と川との関係性にあると考え、河川づくりの過程で積極的に“住民参加”を取り入れるために、古来より住民自らの手で行われてきた“伝統技術”を用いたものを提案する。そして、本提案が今後の河川環境整備において1つの参考となることを目的とする。

方法

まず、治水整備の歴史とそれぞれの時代背景での人と川との関係性について過去の資料・文献を用いて把握し、住民参加の重要性を明らかにする。次に、伝統技術が現在の河川づくりに活用できるかどうかについて、過去の事例や研究を参考に検討する。最後に、“住民参加”と“伝統技術”の考え方の重要性を把握した上で、従来の多自然川づくりと比較しながら、住民主体の伝統技術を用いた河川づくりを提案する。

結果

本研究では、人と川との関係性について着目した“住民主体の伝統技術を用いた河川づくり”を提案し、その具体的な過程(事前準備→計画→設計→評価検討→施工→維持管理)を作成した。内容は、河川づくりの過程において、専門知識が不要なところを基本に住民参加を積極的に取り入れたものであり、ここに従来の“住民参加”にとどまらず、住民が計画の立案・評価決定において合意形成を行うことを取り入れた。さらに、“伝統技術”を用いることにより、実際の施工や維持管理の作業面での住民参加も可能にした。このように設計以外の場面で住民参加を取り入れることにより、住民が主体性を発揮することができるようになると思われる。

指導教員 豊田 政史 助教